

地域プロジェクトⅡ 成果報告

「北海道立函館美術館との連携による女性雑誌『スタイル』特集展示」

メンバー一覧

高橋加奈（国際協働グループ3年） 熊谷有美香（国際協働グループ3年）
本田栞（国際協働グループ3年） 菅原はな（国際協働グループ3年）
赤坂理歩（国際協働グループ3年） 坂越璃奈（国際協働グループ3年）
坂越瑠奈（国際協働グループ3年） 北野未森（国際協働グループ3年）
小栗祐美（国際協働専攻・国際協働グループ教授）

このプロジェクトの目的・概要

このプロジェクトは、第一に、郷土の文化的資料を発掘して調査を行い、その成果を地域に公開・発信すること、第二に、地域の図書館や美術館などの文化施設について、地域の人に興味を持ってもらうことを目的とした。

[地域プロジェクトⅠ（2年後期）]

函館市中央図書館に郷土の貴重資料として保管されている女性雑誌『スタイル』を調査。昭和前期のファッションや生活を調査して、現代との違いや共通性を発見していった。そして、地域の図書館が収蔵していることから、地域の人たちにも興味を持ってもらえるような発表を企画。（『スタイル』には、函館市と関連した記事も掲載されていた）

[地域プロジェクトⅡ（3年前期）]

2年後期で調査した女性雑誌『スタイル』の成果を、展覧会として企画。北海道立函館美術館で一般公開を行った。その際に、女性雑誌『スタイル』の復刻版と、学生が制作した雑誌中に掲載されている記事の紹介パネルを共に展示。函館市中央図書館が収蔵する女性雑誌『スタイル』を知ってもらい、郷土の貴重資料に興味を持ってもらうことや、北海道立函館美術館で展覧会を行うことで地域の美術館の活動にも、関心を持ってもらうことを目的として活動した。

プロセスと成果

[2年後期]

函館市中央図書館へ行き、郷土の貴重資料である『スタイル』についての調査をした。貴重資料ということもあり、図書館の中でしか閲覧できなかったが、一人一人がテーマを持って、雑誌『スタイル』についての研究を進めていった。現代の女性雑誌や現在の生活習慣などと、『スタイル』に記載されてい



宇野千代編集
『スタイル』
特集展示
北海道立函館美術館と連携

た当時行われていた生活とを比較していった。それにより現在との共通点や相違点を理解し、雑誌が刊行されていた時代の特徴をつかむことができ、自分たちでまとめることができた。

[3年前期]

北海道立函館美術館で展覧会をさせてもらうことになった。自分たちで展示作業、撤去作業を行い、美術館の仕事に関わることができた。さらに、展示スペースに学生の研究した記事をパネルにして設置。当時のスタイルの記事はどのようなものだったかを知ってもらうことにした。函館美術館で展示を行うことで、多くの市民にスタイルについて知ってもらうことができた。さらに、地域の美術館という文化施設に足を運んでもらうという目的を達成することができた。(実際のパネル→)



(展示風景)



(展示作業・撤去作業)



(新聞取材)

展覧会オープンの前日に函館新聞、北海道新聞の2社が取材に来てくれた。



年間スケジュール表

地域プロジェクトⅠ (2年後期)				地域プロジェクトⅡ (3年前期)			
2017年 10月	2017年 11月	2017年 12 月	2018年 1月	2018年 4月	2018年 5月	2018年 6月	2018年 7月
○調査・整理 ○活動内容 の話し合い	○調査・整理 ○発表準備	○調査・整理 ○発表準備	○発表	○活動内容 の話し合い ○調査・準備	○展覧会準 備(パネル原 稿作成)	○展覧会 準備 ○展覧会 (展示)	○展覧会 (撤去) ○発表

地域からの評価

○函館美術館から見た『スタイル』展の意義 (北海道立函館美術館 井内佳津恵学芸課長)

企画内容としては、現代の学生の目で、昭和戦前のファッション誌の内容を検討するという点に新鮮味があり、宇野千代という戦前の進歩的な女性の一人が編集した雑誌を取り上げた点も、観覧者の関心を喚起する上で、効果的であった。

地域連携という点では、地元の図書館が所蔵する貴重図書に焦点を当てた点で、地域の文化資産を活用する企画として評価できる。また、当館のホールでの展示を実施したことにより、会期中の来館者すべての目(展示期間14日間3,042名)にふれたことで、成果発表としては効果的であったと考える。実際に来館者も、足を止めて、じっくりと資料を読み込む姿が目立った。当館としては、今後も、このような企画の提案があれば積極的に協力したいと考えており、大学教育の成果をひろく地域に還元する一助となれば幸いだと考えている。

総括と反省

今回、函館市中央図書館や、北海道立函館美術館と協力をして行った地域プロジェクトだったが、ま

だ地域の人々に私たちの活動が広まっていないと感じた。また、地域施設の利用を増やそうと展覧会を行ったが、情報をさらに広げるために、チラシだけではなく SNS などでも呼びかけを行った方が良かったと感じた。しかし、郷土の貴重資料である雑誌『スタイル』を函館の市民の方に少しでも紹介できたことはとても良い成果になったのではないかと考える。

[今後の課題]

今後の課題としては、図書館や美術館などの施設をもっと地域住民に利用してもらうための企画作りをする必要があるのではないかと考えている。なので、この『スタイル』を美術館に展示するだけでなく、そのほかの施設に伺い、展示させてもらうことにより、施設利用を増やし地域に貢献できる活動を行っていきたい。